

群馬県立大泉高等学校 学校評価一覧表②（令和3年度版）

（様式2）

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	○地域の特長や課題を理解し、多角的なものの見方や考え方を身に付ける学習に積極的に取り組む生徒の割合が80%以上である。 ○「課題研究」「総合的な探究の時間」に主体的に取り組む生徒の割合が80%以上である。 ○本校の教育課程や授業に80%以上の生徒が学びがいを感じ、学習活動に取り組んでいる。 ○卒業後も成長し続けるための基礎・基本を身に付ける指導に70%以上の生徒が満足している。	B	A	A	○地域の特長や課題を理解する学習、「課題研究」「総合的な探究の時間」についての取り組みについての生徒調査・保護者調査とも高い数値を示している。 ○コロナ禍の学習活動の制限が懸念されたが、課題研究発表会等の場を通じ、学習の成果を発表することができた。 ○教育課程や授業に対する期待値や基礎・基本の習得に関しても生徒調査・保護者調査でも目標値に到達はしているが、学習意欲や成果を一過性のものにせず、進路選択や学習習慣の改善等に繋げるための更なる改善の余地があると考えられる。	○課題に対して多角的なものの見方や考え方を身につける学習に積極的に取り組む生徒が80%以上の数値となっていることは大変よい。在学時だけでなく、卒業し、社会に出ても力強い人生を歩むことができる（評議員B）。	○次年度は新教育課程の実施初年度に当たるため、現行の取り組みを継続しつつ、指導と評価の一体化の観点から授業改善に努める。特に「課題研究」「総合的な探究の時間」はカリキュラムマネジメントの観点から本校の学習活動の中軸を担う授業であり、授業改善の充実を心がける。 ○次年度は新旧の教育課程が混在することとなるが、卒業後も成長し続けるための学習の基礎を身につけさせることは教育活動の本質である。育てるべき資質・能力を各教科レベルで明確化し、学校全体で進むべき方向の検証に取り組む必要がある。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○科目選択や習熟度による少人数授業、実習やグループ学習に80%以上の生徒が満足している。 ○80%以上の生徒が学習ルールを守り、目的意識を持って学習活動に取り組んでいる。 ○70%以上の生徒が何らかの資格取得に取り組んでいる。	B	B	B	○少人数授業やグループ学習に関する満足度は生徒調査・保護者調査とも最も高い評価群の一つである。また、過年度に比して授業規律の確保に対する取り組みも生徒・保護者・教員調査とも満足度が高く、今後とも丁寧な対応が必要である。 ○資格取得による増加単位の申請者が昨年度に比して4割ほど増加した（特に3年生が顕著）。	○少人数制の授業で個々の生徒に寄り添う授業は、生徒にとっても保護者にとっても心強く、やる気の後押しとなっていると思う（評議員D） ○資格取得に関する指導は将来社会に出たときに必ず役に立つため、積極的に推進して欲しい（評議員A）	○少人数制のメリットは生徒・保護者・教員の各立場で共有できている。新しい教育課程に移行することに鑑み、運用体制の課題等にも検証を重ねていきたい。 ○資格取得について、生徒の学習動機付けや進路選択の幅を広げる等の観点から指導の充実を図る。また、キャリア形成の面からも指導の改善に取り組みたい。
		○思考力・判断力・表現力を身に付けるための指導に70%以上の生徒が満足している。 ○各学期の定期考査の結果、成績不振者が10%以下である。	B	A	A	○思考力・判断力・表現力を身に付けるための指導への満足度は目標値を達成しているが、その定着度や質について検証する必要がある。 ○成績不振科目を有する生徒の割合は教科・科目により隔たりが大きい。	○思考力・判断力・表現力等を身につけておけば、将来何か問題が生じたときに確かな判断や問題解決ができる（評議員B）。	○観点別評価の導入を踏まえ、「自己満足」に陥らず、客観的指標としてシラバス等で示した指標が機能するよう、職員間の共通理解を図る。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	○職員会議や学年会議等で、生徒に関する情報交換を月に3回以上実施する。 ○教育相談体制が十分であり、80%以上の生徒が職員を信頼して相談できると感じている。	B	B	B	○情報交換の基盤が確保されていることで、分散登校や黙食等の時宜を得た対応ができた。 ○教育相談に関するニーズが年々増加しており、1学期中に職員研修を実施した。個別事例で止ず、普遍化することが必要である。	○情報交換を行うことは生徒と先生の信頼関係が強くなり、有意義な学校生活を過ごすことに繋がる（評議員B） ○インクルーシブ教育の研修に取り組んでいることは素晴らしい（評議員C）。	○学年会議を時間割上に位置づけていることが、丁寧な生徒指導に繋がっている。次年度も情報共有に基づいた生徒指導の充実を図るとともに、時代に即した生徒指導が行えるよう、職員研修の充実に取り組みたい。
		○いじめについて、学校は解決に向けて取り組んでくれると認識している生徒が80%以上である。 ○いじめの発生防止に努め、いじめが発生した場合は適切な指導を行い、解消率が100%である。	B	A	A	○いじめ防止対策推進法を踏まえた職員研修を複数回行ったほか、生徒指導小委員会では実態把握を丁寧に行う運営が行われた。 ○LHR等を通じ、いじめに関する啓発的指導は行っているが、発生しないことはない。声を上げやすい環境を今後も整備すべきである。	○いじめ対策委員会での積極的な取り組みにより十分な成果が出ていると考える（評議員A）。 ○SNSなど目の届かないところでいじめが発生している。ICTリテラシーの教育を充実しているほい（評議員D）。	○積極的に認知し、情報共有を行うことが生徒・保護者の安心感の涵養に繋がっており、次年度も継続していきたい。 ○いじめ防止対策推進法の趣旨を踏まえた職員研修は職員の意識改善に大いに貢献しており、次年度も研修の充実に取り組みたい。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	○1日の遅刻者数及び欠席者数がそれぞれ平均して6人以下である。 ○農業クラブの研究部や部活動に60%以上の生徒が所属し、健康的な学校生活を過ごしている。	B	B	B	○特定の生徒の遅刻・欠席が目立つ傾向があり、生活習慣の改善指導を強めていきたい。 ○部活動の加入率は目標値を達成しているが、コロナ関連の活動制限もあり、実際の参加状況が把握しにくい状況がある。	○コロナ禍においても部活動においても生徒の適性を活かして指導に取り組んでいる様子が見て取れる（評議員C）。	○コロナ禍で出席停止が多くなり、統計上の欠席は減少したが、遅刻等の生活習慣上の問題が残された状態となっており、改善が必要である。部活動の充実も感染対策とともに推進していきたい。
		○進路ガイダンスの実施内容に75%以上の生徒が満足している。 ○進路実現のための二者面談等に70%以上の生徒が満足している。	B	A	A	○就業体験学習や上級学校見学の代替として積極的に進路ガイダンスを実施した。 ○二者面談に対する生徒・保護者の満足度に関する数値は目標値を達成することができた。	○コロナ禍における進路指導は苦労が絶えないと推測できる。今後もできる範囲で最善策を模索するとともに、ICTの機能等を駆使してベストな指導に取り組んで欲しい（評議員D）。	○次年度も新型コロナウイルス感染症への配慮や教育活動の見直し・制限は続くことが十分予想される。ICTの積極的な活用や職業人講話の実施など、実社会との接点を確保する行事や指導内容の精選に取り組む。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○「自己の生き方」「将来の職業」等について70%以上の生徒が真剣に考えている。 ○1年次に実施する就業体験学習が進路選択の参考となる生徒が70%以上である。	B	B	B	○生徒・保護者調査とも概ね進路について真剣に考えているが、具体的な行動を伴わないケースも散見されるため、情報提供に努めたい。 ○コロナ対応のため、就業体験学習を断念せざるを得なかったが、進路ガイダンスなどでの代替措置を複数回実施し、対応した。	○実社会のことを先生や両親とよく話し合うことが大切である（評議員B）。 ○進路学習やキャリア教育のための時間の確保を次年度の改善点として活かして欲しい（評議員A）	○就業体験学習等、体験を伴う教育活動については感染症対策との兼ね合いで変更を余儀なくされてきた。実務のノウハウの継承も含め、望ましい職業観や勤労観の形成に寄与できる教育活動の工夫が必要である。
		○webページを月5回以上更新し、本校の教育活動の周知を図る。 ○本校の情報発信に保護者や地域社会の満足度が80%以上である。	B	B	B	○年度当初、webページの更新が滞った時期もあったが、各分掌による更新が顕著となった。 ○情報発信の媒体・頻度について保護者調査は概ね評価は高い。引き続き、改善を図りたい。	○webページの情報発信について、積極的に取り組んでいるが、他校の掲載事例など、参考にすることも大切である（評議員A）。	○webページの充実について、他校の取り組み等を参考に教育活動の発信ができるよう、随時見直しを図る。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	○ICTを活用した授業や、学習支援ソフトを用いた個別最適な学びに対して満足と答える生徒が70%以上である。 ○生徒は週10回以上、学習用端末による授業や指導を受けている。	B	B	B	○ICTに係わる生徒・保護者の期待値・満足度は概ね目標値を達成しているが、ICTの効果的な活用についてさらなる改善が必要である。 ○教科・科目の特性もあり、利用頻度に差がある。情報共有を進め、改善に着手したい。	○教育のデジタル化に努め、効率化を図り、授業改善を期待したい（評議員A）。 ○ICTやペーパーレス化を使いこなす力を身につけることは情報化時代に必要なことである（評議員B）。	○職員研修を通じ、ICTの活用法について職員一人一人のスキルを向上させるとともに、授業実践の交流の機会を設けることでSTEAM教育を視野に入れた授業改善を推進できるようにする。
		○ICTを活用した生徒・保護者向けのアンケートを年10回以上、実施している。 ○ICTを活用し、ペーパーレス化を目指した職員研修や会議を年2回以上、行っている。	A	B	B	○回数は目標値を達成したが、回答率に課題があるため、改善を図りたい。 ○職員研修や職員会議ではchromebookを活用する頻度が増えた。ペーパーレス化について、さらなる改善に取り組むたい。	○chromebookで健康観察を行うなど、大変有効であると思う（評議員D）。 ○ICT機器の活用が積極的行われていることがよく理解できた（評議員C）。	○ICTを活用したアンケートについて、回収率が導入以前に比べ低下傾向が見られるため、アンケートの実施の時期や呼びかけ等について見直しを進める。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。		C	A	B			
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。		B	B	B			
			B	B	B			
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。		B	B	B			
			B	B	B			
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。		A	B	B			
			B	B	B			

